

TRネット 市民に拡大

国立がんセンター 土屋 了介氏に聞く
中央病院病院長

基礎的研究成果を実用化するための橋渡しを行う研究（TR）を主な目的とするNPO法人、健康医療開発機構は広く市民を交えたネットワーク構築に動き始めた。その一環として2月23日、がん対策基本法制定など国の対応も真剣さを増しているがん診療の課題や将来像をテーマにした大規模なシンポジウムを東京都内で開催する。シンポを機に市民向けの情報提供を一段と拡充するほか、提言なども行う考え。NPO法人の主要メンバーで健康改革の論客でもある国立がんセンター中央病院の土屋了介病院長にがん診療のあり方などを聞いた。

（竹本祐介）

「がん診療に関する最近の動きは。」「都道府県ごとに整備するがん診療連携拠点病

院に關してだが、大学病



院の中に腫瘍センターを

つくて拠点病院になる

ところが増えてきた。こ

工学融合など研究体制必要

来月23日 東京でがん診療テーマにシンポ

れまではがんだけの専門

病院的なものを意識して

者が多く、他の病気も抱

え、新たな技術開発も必

要ですね。

「新しい治療法や、も

「がんの専門施設をつくる

のが主流になっていくと

思う。この拠点病院に相

談支援センターを置いて

医薬は欧米が担っている

「高度治療の集約が必

要だが、専門医が専門以

外の仕事までしているケ

ースが多い。日常の診療

は町の診療所のレベルを

上げてそちらでの確にや

る体制にすべきだ。がん

の再発のチェックなども

やる。専門家を生かすに

は役割分担が必要だ。大

づくりが関係してくるが

診断機器は強い。マンモ

グラフィーなんかはその

一例だ。医薬でも、出遅

れたとはいえ新しい機構

発といっても医療関連の

つちや・りょうすけ 70年

（昭45）慶応義塾大学

医学部卒、同年慶大病院

外科入局、79年国立がん

センター病院外科医員、85

年国立がんセンターICU

病棟医長、02年国立がん

センター中央病院副院長、

06年から現職。神奈川県

出身、62歳。

「シンポジウム概要」▽

上田龍三・名古屋市立大

「がん診療の明日を創る」▽

2月23日13時▽会場▽学術総合

センター一橋記念講堂

（東京都千代田区一ツ橋

2-1-12）

▽基調講演Ⅱ「がんで

死なないために」

（武藤徹一郎・癌研究会有明病

院長）▽特別講演Ⅱ「日

本のどこでも適切ながん

診療を」

（土屋氏）▽パ

ネルデイスカッションⅡ

「今回のシンポジウム

はNPO法人の活動を世

に広げる第一歩。がん

対策基本法など体制は

できつつあるが、問題は

まだまだたくさんある。

今後は研究助成などの

提言も要る。企業や自

治体の支援を受けなが

ら取り組んでいきたい」

活動は。

「参加費Ⅱ無料▽定員

500人▽申し込みは

専用ウェブサイトで

http://sympo08.tr-net

works.org)を

利用